

新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和7年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	新座市児童センター、福祉の里児童センター			
所在地	新座市本多1-3-10、新座市新塚1-4-5福祉の里3階	所管部署	こども支援課	
制度導入年度	平成22年度		選定方法	☐ 公募 / ☒ 指名
指定管理者	名称	特定非営利活動法人新座子育てネットワーク	所在地	新座市菅沢一丁目4番5号
	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日（5年間）		

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	子どもの健全育成のため、遊び・学び・ふれあいの三つの柱を基本に、0歳から18歳までの子どもの心身の発達に応じたきめ細かな事業運営や支援を行った。令和5年に施行された「こども基本法」の理念をさらに深化させ、子どもの意見を尊重し社会参画を促す「こどもまんなか」の居場所づくりを徹底した。事業は①子どもの健全育成事業、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業を体系的に展開し、全来館者が安心・安全に過ごせる環境を整備するとともに、地域ネットワークの中核として機能した。 事業実施に際しては事業目的を明確にし、実施後は評価と見直しを合わせて行った。事業は①子どもの健全育成事業（子どもの遊びと学び事業（全学年、小学生、乳幼児の対象別））、②相談事業、③子ども参画事業、④中高生の居場所事業、⑤要支援児童事業、⑥親支援事業（母親・父親）⑦地域連携・異世代交流事業、⑧情報提供事業、⑨運営協議会等の9分野にわたり、令和7年度は2館合計で開催数2,849回、延べ参加者数47,900人となった。また、来館者数は2館合計103,187人だった。
特筆事項	※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載 これまでの運営ノウハウを結集し、こども参画事業、中高生が自ら自律的な運営体制を支える、子どもたちの主体性と社会参画を具現化した。 また、長年活動を支えている父親サークル「お父さん盛り上げ隊」は6年ぶりとなる「大流しそうめん大会」を復活開催し、現役世代への継承も達成した。 さらに両館共催のフードパントリー、「ほっこりごはん」、専門家を交えて特別ニーズサロン「ポレポレくらぶ」等を通じ、生活困窮や孤立のリスクを抱える世帯に対するセーフティネットとしての機能を強化した。 ＜新座市児童センター＞ ●令和7年度の父親利用者が令和6年度から比較して1,000人以上の大幅増。父親参画事業の「お父さん盛り上げ隊」の主要メンバーの世代交代も円滑に行われた。 ●障がい児親子向けのワークショップ「ポレポレくらぶ」ではアフリカ音楽やイングリッシュハンドベルなど、障がいの有無を問わず楽しむことのできる音楽のワークショップを行い親子の孤立防止と多世代交流を促進した。また教育相談センター職員を招き特別支援教育や就学相談について学ぶ会など保護者の不安解消や専門機関との適切な橋渡し（連携強化）も行った。 ●不登校児の保護者を対象に公立高校の教諭や大学の職員を迎えて3回の講座を実施、その中で同じ悩みを抱えた先輩保護者をゲストスピーカーとした会を行い、孤立しがちな保護者が安心して悩みを共有できる場を提供した。 ＜福祉の里児童センター＞ ●令和7年度の全体利用者数は40,615人となり、令和6年度と比較して4,800人程度の増加となった。中でも、小学生と中高生の増加が大きく、平日の放課後や長期休みでの継続的な利用が要因と考えられる。 ●昨年度に引き続き、オリジナルカードゲーム「里カード」を作成し、常設の館内ミニゲームや一部事業参加者に配布。また、「里カードクリエイター会議」や「里カードバトル大会」等、カードを通して子どもが主体となって活躍できる事業も新たに展開した。利用者増に繋がったほか、小学生から高校生までの幅広い層の交流の機会となった。 ●子どもの預け合いや保護者のリフレッシュを取り入れた、親子のサークル活動「なかまほいく」を、昨年度に引き続き開催。昨年度、なかまほいく事業が「第一回つながるSAITAMA大賞」を受賞したことで関心が広まり、事業最終日には埼玉県副知事が視察に訪れた。 ●障がいや低体重出生等の子どもと保護者の交流事業を継続開催。子育て支援コーディネーターや作業療法士の方を交え話し合う「ピアサロン『はあもに一』」を開催したほか、インクルーシブな育ちについて考える「サラダボウル」を開催し、専門家に直接疑問や不安を相談できる機会とした。

【総合評価】

指定管理者の自己評価				
総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	令和7年度は、通算15年に及ぶ安定した運営経験と地域ネットワークを最大限に活かし、児童センターの設置目的を極めて高度かつ誠実に具現化した。 「こども基本法」の理念を軸に据え、日常的な「子どもの意見を聞く会」から、中高生が自ら仕組みを考えて運営する「かえっこバザール」などの参画型事業、高校生が主導する「里カードバトル大会（ピースケ杯）」へと発展させ、子どもの主体性と社会参画を力強く育成した。 また、地域の潜在的ニーズを的確に捉え、父親サークルの伴走支援による「大流しそうめん大会」の復活や乳幼児世帯のエンパワメント、生活困窮世帯へ寄り添う両館共催の「ほっこりごはん（フードパントリー）」や長期休暇中の緊急食糧支援など、延べ4,523人への世帯支援を展開し、多世代が共生する重層的なセーフティネットとしての機能を確立した。 行政担当課との緊密な連携による迅速な施設修繕（クライミングウォールの安全改修や飛散防止フィルム全面貼り替えなど）も含め、ハード・ソフト両面において、新座市の子育て環境に不可欠な「こどもまんなか」の居場所としての価値を一段と高めた1年であった。			
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入			

市の評価				
総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	児童センターの設置目的を理解し、全ての子どもたちが利用しやすい環境づくりや、研修等による職員の資質向上、日常的な施設の点検による安全管理など、広くサービスの向上に努めている。 「こども基本法」の理念に基づいたこどもの意見表明やこども参画事業についても、年々取組が拡大されており、魅力的な事業の実施により両館とも来館者数が増加していることを評価する。引き続き、適切な管理運営に努めてください。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

この度の評価を真摯に受け止め、今後も「こども基本法」及び「第3次新座子ども・子育て支援事業計画」に基づき、全てのこどもが利用しやすい児童センター運営を推進いたします。具体的には、以下の3点に注力いたします。

1. こども参画のさらなる展開

評価いただいた「かえっこバザール」や「こどもサポーター」、「里カード」関連事業等のこども参画事業を再検討した上で継続・発展させます。子どもたちの意見表明の機会をさらに強化し、主体性を育む「こどもまんなか」の居場所づくりを徹底します。

2. 安全管理と職員の資質向上

日常的な点検を通じた安全管理を一層徹底し、施設の不具合や利用者の事故等にも迅速かつ適切に対応できる体制を維持いたします。また、専門家や子育て支援コーディネーターと連携したピアサポート事業などを通じて、インクルーシブな環境整備に努めるとともに、孤立を防ぐ地域の子育てセーフティネットとしての機能を高めてまいります。加えて、両館職員による合同の内部研修を実施し、地域から求められる児童センターの役割について研鑽を深め、職員全体の意識と専門性の向上を図ります。

3. 多様なニーズへの果敢な挑戦

当法人が四半世紀にわたり培ってきた地域支援の知見を最大限に活かし、こどもたちが豊かに育ち、親が安心して子育てできる地域・社会づくりのため、現代的課題にも果敢に挑戦し、すべてのこどもと家庭に温かく寄り添う環境づくりに努めます。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	令和5年度 （1年目）	令和6年度 （2年目）	令和7年度 （3年目）	令和8年度 （4年目）	令和9年度 （5年目）
指定管理者の自己評価	A	A	A		
市の評価	A	B	A		